



## 我孫子宿 水戸道・成田道追分（史跡）に文化財説明板を設置 現地説明会を開催

我孫子市寿の水戸道・成田道追分に文化財説明板を設置します。それに伴い、地元住民と市長を交えた説明会を開催します。一般の方の参加はできません。

**現地説明会** ※会場が狭いため、複数名で来られる場合は予めご連絡ください。

日 時：令和4年9月27日（火）午後2時30分～（1時間程度）

場 所：我孫子市寿2丁目1397番地先（歩道）

参加者：地元住民

市 長 星野 順一郎

教育長 丸 智彦

解 説：教育委員会文化・スポーツ課職員

### 水戸道・成田道追分とは

現在「成田街道」と呼ばれている道は、江戸時代以前は「水戸道」と呼ばれていました。当時の水戸道は、東我孫子、湖北、布佐、利根川を渡って布川へと進み、水戸へと向かう道でした。

江戸時代になると幕府は、交通が各地方への幕府の支配力を高める重要なものと考え、江戸を中心とした陸上・水上交通網の整備に力を入れました。江戸と水戸とを結ぶ水戸道は、水戸徳川家や常陸周辺の大名が江戸との往来に利用し、東海道などの「五街道」に次いで重要な「脇往還」として発達しました。

のちに陸路・水路の整備が進み、大きく迂回した水戸への道は変更となり、この追分から北上する新たな「水戸道」が生まれました。江戸時代以前に「水戸道」と呼ばれていた道は、「成田道」と呼ばれるようになり、結果として成田道の起点となりました。

新しくできた「水戸道」は北へと向かい、柴崎神社付近を通り、青山の渡しを使って対岸へと渡り、取手宿へと進みます。

この新旧二つの「水戸道」の分岐点が「水戸道・成田道追分」です。令和3年度には、地元の方々が寄付を募り、現地に保存されていた道標などを整備しました。その際、道標の中には、新しい水戸道が開通した直後の元禄4（1691）年に建立されたものが含まれていることも判明しました。

#### 【問い合わせ】

我孫子市教育委員会文化・スポーツ課  
担当：歴史文化財係 手嶋

☎ 04-7185-1583（直通）